

倫理 シラバス

教科・科目名 公民・倫理[2単位]

対象学年 普通科・3年1・2・3・4・7・8組

使用教科書 第一学習社『高等学校 倫理』 副教材 第一学習社『テオリア最新倫理資料集 三訂版』

担当教諭

月	単元(節・項)	指導目標
4	第1章 青年期の課題と自己形成 ①青年期の課題 ②自己の探求	ライフサイクルの中で、青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えさせる。
	1 青年期の心とからだ 2 青年期の人間関係 3 個性と社会化	青年期の心身の特徴を把握させるとともに、青年期の悩みの心理的な特徴に気づかせ、悩むことが自己形成につながることを理解させる。
5	③現代の青年期	生きがいとは何か、生徒各人の問題としてとらえさせ、いかに生きるべきかという倫理学習の基本的課題に結びつける。
	第2章 人間としての自覚 一思想の源流から学ぶ ①よく生きることを求めて ②ギリシアの思想 1 哲学の形成	人間の特質は何かを理解させる。また、宗教や芸術、哲学の意義を考えさせ、先人の生き方を手がかりに、どう生きていくべきか学ぶ必要性を理解させる。
	2 ソクラテス 3 プラトン 4 アリストテレス 5 ヘレニズムの思想家たち 6 ギリシア哲学と私たちの	ソクラテスのあり方、生き方をはじめとした、ギリシアの思想家のもの見方・考え方を理解させることにより、古代ギリシアの思想は、私たちにとってどのような意味を持つのかを考えさせる。
6	③キリスト教 1 ユダヤ教の世界 2 イエス 3 キリスト教の発展 4 キリスト教が私たちに問	イエスの思想をユダヤ教と対比させ、愛の神、律法の内面化という視点を中心に理解させる。キリスト教信仰の構造を説明し、キリスト教的な生き方や、人間観の特徴を理解させる。
	④イスラーム	イスラームはどのように誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教とキリスト教とはどのように関係するのか、などについて理解させる。
6 ～ 7 月	⑤仏教 1 インド思想文化 2 ゴータマの教説 3 仏教思想の展開 4 今に生きる仏教の教え	インドの人々はどのような死生観を持っているのかを理解させる。また、ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解させる。仏教の思想の現代的な意義にも触れる。
	⑥中国の思想 1 中国の思想文化 2 儒家の思想 3 道家の思想 4 中国思想のこれから	中国の人々の自然観・人生観を理解させる。また、孔子の政治思想を軸に、徳・礼・仁・孝・君子などの基本用語を理解させる。儒教思想・道家思想の現代的な意義も示す。

9	<p>第3章 国際社会に生きる日本人とし 自覚 日本の思想から学ぶ ①日本の風土と伝統</p>	<p>日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考えさせる。</p>
	<p>②外来思想の受容 1日本仏教の展開 2日本儒教の展開</p>	<p>仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、さらにどのように変容していったのか。その大きな流れを把握させる。鎌倉仏教の各宗派の特色を理解させる。</p>
	<p>③町人意識のめざめと 庶民思想 1義理と人情 2国学の成立 3庶民の思想</p>	<p>義理と情念の観念がどのように形成されてきたのかをつかませる。また、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかに気づかせる。</p>
10	<p>④西洋思想の受容 1幕末の思想 2明治の啓蒙思想 3日本社会とキリスト教 4社会思想の展開 5近代的自我の確立 6近代日本の思想課題 7世界に生きる日本人と伝統</p>	<p>幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握させる。また、日本の近代思想がどのように展開していったかを理解させる。日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人の生き方を考えさせる。さらには、沖縄(琉球)の人々と日本人の思想・文化の関係についても考えさせる。</p>
	<p>第4章 現代の特質と倫理的課題 ①科学技術の発達とその功罪 ②資源の枯渇と環境問題の発 ③小子高齢化社会と家族 ・地域社会の変容 ④情報化社会の進展と新しい ⑤進展する国際社会と日本人の 課題</p>	<p>生命に関する問題、環境問題、家族・地域社会の変容、小子高齢化社会の問題、情報化社会の問題、国際化における問題など現代の課題を概観し、私たちが取り組まなければならない倫理的課題は何かを、主体的に考えるためのきっかけ作りとなるよう配慮する。</p>
11	<p>第5章 現代に生きる人間の倫理 近現代の西洋思想から学ぶ ①人間の尊厳と自由 1ルネサンスと宗教改革 2人間性の探求 3人格の尊厳と自由—カント 4人倫の自由の実現—ヘーゲル 5自由と責任</p>	<p>人間の尊厳と自由にかかわる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしているのかを考えさせる。</p>
12	<p>②近代の科学革命と自然 1近代の科学革命 2経験論と合理論 3自然観の転換と自然の共</p>	<p>近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解させる。さらに、ベーコン、デカルトなどによる科学的思考の考え方の特色を理解させる。</p>
12 ~ 1 月	<p>③民主社会における人間のあり方 1社会契約の思想 2社会主義の思想 3プラグマティズムの思想 ④幸福の追求と主体性の確立</p>	<p>近代ヨーロッパの社会契約論を通して、民主社会の成り立ちを理解させる。また、社会主義の生まれた背景、その展開過程、プラグマティズムの思想についても解説する。</p>

	<p>1 功利主義の思想 2 実存主義の思想 3 よい生き方を求めて</p> <p>第6章 現代の諸課題を追求する(選択)</p> <p>① 生命倫理と課題</p> <p>② 環境倫理と課題</p> <p>③ 家族・地域社会と課題</p> <p>④ 情報社会と課題</p> <p>⑤ 異文化の理解と課題</p> <p>⑥ 人類の福祉と課題</p>	<p>ベンサムとミルの幸福に対する考え方の違いを説明する。また、主体性を強調した実存主義の思想家たちの主張を示し、主体的な生き方について考えさせる。</p> <p>生命科学や医療技術の発達によって、生命の誕生から終わりまで人間の手が加えられるようになってきたことを理解させ、人間はどこまで生命という法則に関与してよいのかを考えさせる。</p> <p>地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べさせ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察させる。</p> <p>核家族化、少子化の進行とともに、家族関係も大きく変容していることを理解させる。また、男女共同参画社会の様々な問題、高齢化社会の問題について考えさせる。</p> <p>コンピューターネットワークの発達によって生じている問題について理解させる。氾濫している情報の洪水の中、主体性を失わずに生きていくためにどうしたらよいか考えさせる。</p> <p>国際社会の一員として、異文化理解を深める。日本人としてできる国際貢献とはなにかを考えさせる。</p> <p>国際社会において起きている、人類の悲劇の原因・解決策について考えさせる。</p>
--	---	---

評価の観点

- ① 定期テスト(理解力、思考、知識、表現など)
- ② 提出物(意欲、内容など)
- ③ 出席状況
- ④ 授業態度(考える、読む、聞く、発表など)

学習の特色

青年期における自己形成の課題と人間としてのあり方生き方についての知識をまず学び、それから理解を深め、次に自分の思索を深めさせる。また、急激に変化する現代社会にどう主体的に関わる。そのために、西洋や東洋、特に日本の先哲の思想を手がかりとして学習していく。その中から「普遍的」ということと「個別的」ということの大切さや、思想の違いと共通性の意義を学ばせる。そして、主体的な自分の人生についての考え方、生き方がもてるようにする。

使用教材: 教科書・資料集・プリント・新聞記事・ビデオなど